

# 『ブルー・マーズ』上巻のあら すじのメモ

takaidos

# 上巻メモ

---

キム・スタンレー・ロビンソン/Kim Stanley Robison

"Blue Mars"1996年発刊。

2017年4月、大島豊・訳。

地質学、植物学、生化学、水文学、人口学、心理学、宇宙科学、遺伝子工学、政治・憲法、会社運営。  
景色・背景の描写は微に入り細に入り懇切丁寧。

博識で全体的な枠・流れを示す目線で話を進めている。

登場人物はみんな善人、哲人、賢人タイプで著者の世界観・ストーリーを描くためのコマ。

宗教的、スピリチュアルな人が聖書のように都合良いストーリー展開を描いた感じを受ける。

ひとりないし数人の若者目線の冒険譚や人々の生活がいきいきと分かるようなストーリーではない。

政治的な話や地形・情景描写の量が多い。

宇宙エレベーターや惑星緑化のための大規模開発を出来るような機械を持っている時代の、日常のガジェット、ツールの描写は控えめ。

火星で社会が出来上がっていくとしたら、生命維持のための最低限の環境のあり方とか、経済のあり方、独立後の政治のあり方を哲学的に考えて主要人物を関わらせて「こんなような感じ」と創り出そうとしている。

テラフォーミングも100年では急激。

ストーリー展開としては千年さえ生きられるという長寿療法なしで、代々の若者が織り成して行く火星年代記のような形であった方が面白かったと思う。

長生きしたら、若い時の情熱を残している者がどれほどいるものかと思う。

またアンドロイド、ロボット、サイボーグ、クローンも出て来ない。

## <目次>

### Contents

Part 1: Peacock Mountain

Part 2: Areophany

Part 3: A New Constitution

Part 4: Green Earth

Part 5: Home at Last

Part 6: Ann in the Outback

Part 7: Making Things Work

Part 8: The Green and the White

Part 9: Natural History

Part 10: Werteswandel

Part 11: Viriditas

Part 12: It Goes So Fast

Part 13: Experimental Procedures

Part 14: Phoenix Lake

第1部 孔雀の山

第2部 火星浄福

第3部 新たなる憲法

第4部 緑の地球

第5部 帰郷

第6部 荒野に立つアン

第7部 世界を切り回して

## 第8部 緑と白

### <登場人物>

アン・クレイボーン:Ann. 最初の100人のひとり。ピーターの母。Reds.約150歳。

ピーター:Peter. 今では火星生まれの最初の王。二世。初代は最初の100人の故ジョン・ブーン。Green。

カセイ:Kasei.ヒロコとジョン・ブーンの子。二世。過激独立組織『火風(かかぜ)』を率いる。Reds.

アイリシュカ:Irishika.アンをパボニス火山に案内。

ダオ:Dao. Reds.

ナディア・チェルネフスカヤ:Nadia. 最初の100人のひとり。技術者。バロウズの水没についてアンと対立。Greens. 159歳。行政評議会議長。火星初代大統領。

サックス・ラッセル:Sax Russel. 最初の100人。物理学者。UNTAに囚われて脳にダメージを負った。Greens.

アート・ランドルフ:Art Randolph.超国家企業プラクシスの外交官。Greens. 70~80歳。

ヒロコ・アイ:Greens.現在行方不明?Greens.謎めいた人物。

コヨーテ:Coyote. デズモンド・ホーキンス。トリニダード・トバゴ出身。ヒロコが連れて来た密航者。火星独立主義。Reds.

### 岡倉悦:

アルカーン:al-Khan。

ヤサフ:Yussuf.

ニルガル:ザイゴート生まれ三世。体外受精児。ヒロコとコヨーテの子。Greens.自由火星党フリー・マーズ。火星年では26歳、地球年では中年。

ジャッキー・ブーン:JackieBoone. ザイゴート生まれ、体外受精児。ジョンの孫、カセイの娘。Greens。人権重視。自由火星党・フリー・マーズ。行政評議会メンバー。大統領職を狙う野心家。火星年15歳。10歳の時より長寿処置を受けている。

ミシェル:Michel. 最初の100人。心理学者。

スペンサー・ジャクソン:Spencer. 最初の100人。

ヴラド・タネエフ:Vlad. 最初の100人。男性。遺伝子工学・療法。エコ経済体制考案。アケロン・グループ。もっとも年長で切れ者。謎めいた人物。

マリーナ・トカレヴァ:Marina. 最初の100人。女性。エコ経済体制考案。アケロン・グループ。経済学。

ウルズラ・コール:Ursula. 最初の100人。女性。エコ経済体制考案。長寿療法。アケロン・グループ。

ミハイル・ヤンゲル:Mikhail. 最初の100人に続いて来た初期メンバー。ボグダノヴィストの指導者。

マヤ:最初の100人。かつてジョンやフランクを愛した女性。

中山七生:明日香。

田カ:明日香。

スティーヴ:最初の百人。ボグダノヴィスト。Reds.

ジョン・ブーン:John Boone. 故人。最初の100人。最初の火星代表者。超アメリカ主義。

フランク・チャーマーズ:Frank. 故人。最初の100人。ジョンを暗殺して権力を奪った。

アルカディイ:Arkady. ロシア人。故人。最初の100人。フォボスを占領して火星独立を図った。

アオニア:Aonia. ダ・ヴィンチ・クレーターの研究員のメンバー。サックス・クローンズという同志のひとり。太陽帆ソレッタを管理。

デレク・ヘイスティングス:UNTAの代表者。軌道エレベーター上部に撤退したが、アートに火星の憲法会議に参加者を送るように言われて自身降りて来る。

シャーロット:ドルサ・プレヴィア出身の憲法学者。評議会書記兼典礼主任。

アリアドネ:ドルサ・プレヴィアの若い女性。女神。案内役として登場した。人権について研究。行政評議会メンバー。

ユルゲン:最初の100人。スイス人。行政評議会メンバー。

プリシュカ:スイス人。Priska。Green Marsでユルゲンらと登場。

イリシュカ:スイス人。Irishka。パヴォニス。Redsの指導者。憲法制定会議で頭角を表す。行政評議会メンバー。

ティウ:Reds.スイス人。Reds.

マリオン:Reds。スイス人。女性。行政評議会メンバー。傲然。

ゼイク・トゥカン:放浪アラブ人の長老。行政評議会メンバー。

ナジク:アラブ人。ゼイクの妻。

アンタル:アラブ人。火星生まれ二世か三世。現在の実質的なアラブ人のリーダー。ジャッキーの仲間。Greens。ジャッキーの赤ん坊の父親である可能性がある。

ウィリアム・フォート:プラクシスの名誉会長。アートを火星に派遣する。

ハリー・ホワイトブック:テンペ台地に住む動物設計者。

UNTA:United Nations Transitional Authority。火星暫定統治機構。地球国家連合により運営。火星を支配したい。

Metanats:Metanational:超国家企業体(前身は多国籍企業)。アームスコー、ワンダフル、アメックスおよびプラクシス。前三社は勢力を拡大したい。武力も使う。

Praxis:プラクシス。超国家企業のひとつ。火星独立を支援するために、アートを送り込んでいる。地球では洪水後、世界各地で救済支援活動を行う。ウィリアム・フォート名誉会長と「永遠の18人」が率いる。

ドルサ・プレヴィア宣言:火星紀元40年(西暦2107年?)、火星独立のための方針を定義した。

私有財産の禁止、余剰価値の専有禁止、地上5千メートルは原初の火星環境のままにする。

インド・中国:地球人口の大半を占め国内に人口問題を抱える。

スイス:国際司法裁判所がある。

インドネシア:

GEC:火星最高環境裁判所。

<あらすじ>

火星紀元52年(西暦2127年)『グリーン・マーズ』の革命でUNTAの火星最大都市バロウズが水没して、火星に海が誕生する。

火星の人口は1200万人に達し700万人は火星で誕生していた。

ヒロコたちの明日香は焼かれ、UNTAの本拠地で火星の首都だったバロウズは水没し、

地球のUNTAの部隊はパヴォニスの軌道エレベーターから撤退をして、上部の軌道ステーション・クラークに立て籠もっていた。

火星の人々は、ドーム型テントか屋根付きの峡谷に住んでいた。

火星は事実上、地球から独立した国家のようになっていたが、火星を原初のまま残すべきと考える派(レッズ)と、惑星緑化をすべきと主張する派(グリーンズ)が存在し、内戦の危機もあった。

また地球から国家として認められるためには、憲法を制定し、法の下運営されていることを示さねばならなかった。

火星の人々は、パヴォニス山のシェフィールド以外の土地に新たな首都の建設を期待していた。

## ■第1部 孔雀の山 ～ アン目線。

場所はシェフィールドの北にある、パボニス・カルデラ。

水没した地球のUNTAの部隊はパボニスの軌道エレベーターから撤退をして、上部のクラークに立て籠もっていた。

アンはそこで軌道エレベーターの処置を検討しているピーターのもとへと向かう。

カセイ、ダオは火風を率いていて軌道エレベータを落とそうと主張していた。

ナディアは軌道ケーブルの占領を主張、アンは落としてしまうことを主張。

ナディアは地球との資源取引、大量移民、警察管理を必要とする場合に役立つと主張していた。アステロイド・ベルトに勝つためにも必要。

ピーター、アート、ジャッキーも同意見。

しかし軌道エレベーターを残すことはUNTAの影響力も火星に残すことになるのだった。

カセイたちレッズの過激分派・火風は軌道エレベータにミサイル攻撃を開始する。

アンはピーターを探し出し、ピーターはアンに火風の攻撃を止めるべく、軌道エレベーター上のヘイスティングスと割り込み通話で話してもらう。

ヘイスティングスは火風の位置情報を把握し爆撃。

カセイとダオは死ぬ。

アンはレッズのアジトに行き、サックスと会い、太陽帆ソレッタの排除を頼み、サックスは実行する。

しかし文明は赤い惑星を、太古からの火星を激しく変えつつあった。

## ■第2部 火星浄福 ～ サックス目線。

ソレッタ/環状鏡を金星軌道に向けて移動させたサックスとサックスの研究鼠。

サックスはミシェルを訪れて、アンを救いたいと話す。

ミシェルといっしょにアンを誘ってタルシス南部の火星生命圏の上限を調査しに行こうと誘うが、アンは断る。

サックスは1人乗りローバーで探索に出るが、吹雪に巻き込まれてしまう。

アオニアに通信で助けを求めるが、ビバーク中のサックスの前にヒロコが現れ、サックスはローバーに無事戻ることが出来る。

しかし後ろにはヒロコの姿は見えなかった。

サックスはパヴォニス、テンペとアンを追って、いっしょに大山塊を観に行く。

アンが突然倒れる。

ミシェル、デズモンドが延命治療セットを持って来て、サックスは延命措置を施す。

## ■第3部 新たなる憲法 ～ アート・ランドルフ目線。

火星紀元52年。西暦2127年(グリーン・マーズの革命でUNTAの火星最大都市パロウズが水没した都市)。

ニルガル、サックス、ミシェル、マヤは地球に外交使節として向かう。

火星が事実上の独立国家として認められるためには憲法の制定が必要になった。

ナディアが呼びかけ、東パヴォニスで憲法会議が開かれる。

各市、派閥・政党の代表者や弁護士が集まり、決定内容は火星市民全体の投票で決議する。

UNTA代表のデレク・ヘイスティングスもアートに誘われて参加する。

ナディアは多くの人たちから信頼されていた。

アートはナディアの秘書となる。

憲法制定作業部会。

シャーロットとドルサ・ブレヴィアの憲法学者たちはいくつかの白紙憲法を用意して来た。

火星紀元39年の『ドルサ・ブレヴィア宣言』では、火星では私有財産は一切認めず、余剰価値の専有も認めない、というものだった。

現在、ダ・ヴィンチ・クレーターの技術者集団が、地球から来るシャトルをUNTAの立て籠もる軌道衛星クラーク(軌道エレベーター上の宇宙ステーション)にドッキングさせず、火星軌道にも侵入させないことで、地球との接触を避けていた

サックスは地球へ向かう船の中から、火星の国家単位をテントや屋根付き峡谷の単位としてはどうか？とアートに提案する。つまり都市国家のようなもの。

ジャッキーは、あまり小さいと自分たちの文化で人権を無視した法律を決めてしまうと懸念する(例:奴隷制OK、家父長制、原理主義、レーニン主義など)。

アートはレッズを訪れ、マリオン、ティウ、イリシュカとレッズの考える火星保存のイメージを訊く。

次にアラブ人のゼイクとその妻ナジク。

彼らはアラブ人社会は互いに憎み合っている、現在の火星でのアラブ人の王様は若いアンタルで、彼は自由火星党のジャッキーの仲間だ、という。

火星生まれは地球以来のしがらみが無かった。

火星生まれは全員、自由火星党だった。

ナディアはシャーロットから多数派の分散や一般市民の政治への理解を得る方策を聞く。

連日の会議。

民主主義と自主独立を主張するアンタルに対して、ヴラドはこれまでの資本主義自由主義は実はそうはなっていない、と言う。

政治的にはそうたっても会社に入れば封建的である。

火星ではそうならないように、労働者が資本を雇い、公平と自由を増大させるために計画経済を実現すべきだという。

火星の惑星政府構想。協同組合民主主義。

- ・連邦政府
- ・二院制の立法府が選ぶ7人のメンバーから成る行政評議会。
- ・下院(ドゥーマ)は住民から徴集された多数の代議員
- ・上院(セナト)は人口500人以上の町から選ばれた代表者
- ・立法府は行政評議会を選び司法府の判事を選ぶのに協力する。
- ・立法業務の大半は個々の町に任される。
- ・司法府はより強い権限を持ち、最高裁判所は憲法裁判所と環境裁判所の双頭。
- ・環境裁判所は惑星緑化をはじめとする環境の変更をめぐる紛争を調停する。
- ・土地委員会も環境裁判所の下部組織。土地の私有は認められないが賃貸契約に基づく保有権は認められる。
- ・経済委員会は憲法裁判所のもとに置かれる。メンバーは協同組合(コープ)の代表者から成る。
- ・エコ経済体制は地下社会のものをベースとし、公的事業に集中する非営利企業と、課税も受ける営利企業から成る。

火星紀元52年第1神無月11日(地球暦2128年2月27日)、憲法89カ条制憲会議通過。

火星年5歳以上の住民、リストパッドで投票。

78%対22%で承認。

火星政府誕生。

#### ■第4部 緑の地球 ～ ニルガル目線

2128年、地球人口150億人。

地球では西南極大陸での地滑りで海面が7メートル上昇していた。

低地に住んでいた者は難民として高地に移動せざるを得なかった。

陸地でも雨が降り続き、農作物に影響し、飢饉の問題も出て来た。

卑しい者は選民を語るようになった。

G11政府、国連、国際司法裁判所の指示する中国、インド、スイス、プラクシス(メタナショナルのひとつで火星独立を支持)とその他メタナショナル。

人々はそれまでの仕事を捨てて、援助事業に参加せざるを得なくなっていた。

災害に苦しむ地球の人々は火星の支援も期待し始めていた。

。。。

地球へ宇宙船アトランティスで向かう、ニルガル、マヤ、ミシェル、サックス。

徐々に地球重力になる船内でニルガルは痛みを感じる。

ニルガルが地球へ向かおうとしたのは、意識しているジャッキーと一時的にでも距離を取ろうと考えたためだった。

地球には軌道エレベーターが10本あった。

一行はトリニダード・トバゴに降りる。

ニルガルの父コヨーテ(デズモンド・ホーキンス)の出身国だった。

8月11日ニルガルの日。

町はカーニバルだった。

トリニダード・トバゴ(T&T)の女性首相が出迎える。

ニルガルは地球と火星で今同時に共感が起きつつあると演説し、民衆に歓迎される。

トリニダード・トバゴはプレクシスがビルを構え、だれでも長寿処置を受けられた。

アームスコーも進出しようとしたが、T&Tは受け入れなかった。

一行はスイスに移動する。

マヤは火星政府の承認のために国連との会議で忙しくなる。

ミシェルはフランスのプロヴァンスを観に行く。

ニルガルは長寿処置を継続しながらも地球の過剰人口を減らして行くために、産児制限と火星への移民を提案する。

長寿処置をしてもやがて歳を取った上の者から死ぬので、今を乗り切れればやって行けるという。

ニルガルは付添人を伴って、列車でスイスの景色を楽しむ。

途中で電車の中で英国人と会い、行方不明になっている、ニルガルの母ヒロコ・アイとイングランドで会った、という。

ニルガルはイギリスに向かう。

ヒロコかもしれない東洋人女性はシアネスにいるかもしれないと聞き、サルベージ船の船長ブライに話を聞く。

ニルガルはその東洋人たちが作った温室住居(火星のテントに使われる泡素材で作られた)を訪れ、ブライ、カルナシン、ケヴに付いて潜水し金庫のサルベージを見学する。

海の中では浮力で身体が楽に感じられた。

サウスエンドに向かい、噂を追ってついに東洋人女性に会うがヒロコではなかった。

テムズ川をロンドンからの漂流して来るものがあった。

公園に埋め込まれていた帆船カティサークも流れて来て、男が帆柱から海に落下するが、ブライたちは助ける。

ニルガルは熱を帯びる。

サックスたちと合流し、サックスはニルガルを火星重力下に戻す必要がある、という。

ニルガルは肺水腫、地球アレルギーのようだった。

## ■第5部 帰郷 ～ ミシェル目線

ミシェルはシルヴィーを付添人として茶色い海に水没した景色を見て回り、自分がかつて住んでいたプロヴァンスの家に行く。

遠い昔イブと過ごした場所だった。

ミシェルは国連との交渉で忙しいマヤを何度も呼び、マヤはついにプロヴァンスにやって来て景色を観ながら甘い時を過ごす。

サックスからニルガルの具合が悪いと連絡が入り、マヤはミシェルを引きずって宇宙に戻る。

## ■第6部 荒野に立つアン ～ アン目線

アンは気象観測用ローバー乗って、ひとりでテンペ台地のボタニー湾に行く。

盗賊カモメやアザラシの死骸を見ているとホッキョクグマがやって来て追いかけられる。

ローバーまで走って逃げると、動物設計者のハリー・ホワイトブックに会う。

ハリーは先日ピーター会ったという。

アンは途中でレッズの過激派の若者たちに会う。

アンは「テロでは誰の理解も得られない。グリーンズを増やしてしまうだけだ」という。

ヒロコはグリーンズ側として地位を確立しているように、レッズも人々に受け入れられ、原初の火星を保つために資金を得られるように都市部でも活動しなければならないと諭す。

アンはそのあとひとりでアスクラ山にローヴァーで登る。

基準点(海拔)2万メートルを越え、それが火星における岩山の限界だった。

## ■第7部 世界を切り回して～ナディア目線

ナディアは火星独立の会議が終わるとパヴォニスとすぐに離れて、ものづくりに戻りたかった。

しかし火星政府の代表団が入り替わり立ち替わり来て、ナディアに行政評議会のメンバーに加わってくれるように懇願する。

立法府による投票で行政評議会のメンバー7人が選ばれた。スイス方式。

ナディア、アリアドネ、マリオン、ピーター、ミハイル、ジャッキー。

最高環境裁判所長官はイリシュカが選ばれた。

人々の信頼を得るナディアは行政評議会の議長(大統領の相当)にも祭り上げられる。

ナディアはパヴォニス山シェフィールドから動けなくなる。

シャーロットに指示して氷河時代を防ぐための勧告を求める『日照損失効果緩和会議M-53』を開く。

新たな経済システムの導入、移行を推進しなければならなかった。

惑星組合化か協同組合化か。

火星通貨シークイン(sequin)。

アートはナディア、ウルズラ、ヴラドを招いて久しぶりに晚餐会を催す。

アートはサククスから聞いた話としてヴラドにアンに脳可塑性治療をするよう話をする。

ウルズラとヴラドはナディアの失った小指の再生治療を施す。

ジャッキーたちフリー・マーズがカイロ市の下流に川を作る工事を開始。

レッズはこの動きに抗議して、環境裁判所に訴えて出た。

ナディアは評議会をまとめて、ジャッキーたちが工事中止しない時は警察を投入して阻止するように働きかける。

妊娠しているジャッキーはナディアに余裕の挨拶を見せる。

政府の力を試そうとしている、とナディアは踏む。

ナディアのもとに、死刑廃止、カルデラの底への住居建設要求、高地への水要求などいろいろな要求が寄せられる。

ナディアは要請に応じて南半球に行く。

レッズや環境詩学のメンバーは至る所で原初の風景を保つために爆破作業を行っていた。

冬は凍って夏は溶けて水が雪崩れ込むクレーターは穴を掘って水量の調節が出来るようになった。

またサククスはアンが気に入るように、クレーターの水を峡谷に流すという案出した。

いろいろな問題に向かっている間にナディアは独立・中立であるより、仲間がいる方が楽に感じる。

故アルカディイの信条「誰もが公平で自由であるべき」。

連中は老婆(ナディア)を然るべき位置に付けて、陰で好きなようにやろうとしていたに違いない。

ボグダノフ・ヴィシュアニク(巨人の足跡)に行き、アーニから土壌生成の説明を受ける。

彼らは環境づくりに適した表土層生成の研究をしていた。

国連と締結された火星条約では毎年火星人口の10%までの移民を受け入れる。

中国人入植者たちはスクャパレリに新しい軌道エレベータを建設しようとしていた。

環境(地球や火星)が支えられる人口の限界の算出はいい加減なものだったが、地球では現在150億人、火星では150万人の人間が住んでいた。

フリー・マーズは地球の人々を火星に招待していたが、環境が整わないままの受け入れを好まない者たちが反対して、逆にレッズ寄りになっている者もいた。

ナディアとゼイクは地球からの移民を遅らせる方に付く。

## ■第8部 緑と白～ニルガル目線

プラクシスのウィリアム・フォート。

火星には地球の陸地に相当する土地がまだ充分あった。

中国では一家村単位で火星行きを指示した。

火星に移住する人々は、マイナーな宗派、民族、母国で自治を与えられない人々が多かった。

シーク教徒、カシミール人、ムスリム、ヒンズー教徒、ズルー人、パレスチナ人、クルド人、ネイティブ・アメリカン



。火星は新しいアメリカになりかけていた。

プラクシスの人口学グループのエイミー、エリザベスは今のペースで火星への移住者を送っても人口爆発の追いつかないという。

(宇宙エレベーターの一車両の定員100人。1日で一車両2400人。エレベータ10基で24,000人。一年間で876万人。現在の人口160億人の一割を移すのに必要な期間は1世紀かかってしまう)

このままでは火星の人口は一年で倍増する。

第一次火星革命は地球からの人口流入が増えすぎて起きていた。

移住先をどこか別に考える必要が出て来た。

火星のカイロ。

赤ん坊の娘とニルガルを迎えるジャッキー。

フリー・マーズの力はカイロのテント内に押し戻されていたが、ジャッキーは地球ー火星間の移民問題にはまだ入る余地がある、と言う。

フリー・マーズはニルガルが運動として始めたが、今は組織としてジャッキーがドルサ・ブレヴィアの支持を受けて力を拡大していた。

ニルガルはジャッキーを支持する者たちからは邪魔な存在になりつつあった。

ジャッキーは中国人の入植や開発を遅らせたいたエルシウム住民代表と会い、続いて入植を進めたい中国代表とも会う。

ニルガルは毎日モニカと飛行訓練を楽しむようになって行った。

ニルガルはある日、一人で飛行船グライダーに乗って、シャイニング・メサ、キャンドー谷に行く。

ニルガルが進めていた運動、火星は自分たちのものになった。

その後、自分は何がしたいのかを考えた。

今のフリー・マーズは人を操る組織になっていた。

ニルガルはキャンドー・メサで座しているところで、エルシウムを飛行中にヒロコと会って話したという娘の話を聞く。

ヒロコの取り巻きの一世たちもいっしょだったという。

サククスと通信で話すと、サククスも実はヒロコと会ったと打ち明ける。

<メモ>

エチモロジー:語源学。

渡り鳥の松果体→概日リズム。体内時計。

火星に磁場は無い。

開析(かいせき、英: dissection)とは、一定の連続性を有していた地形面が、侵食などの影響により多くの谷が形成され、地形面が細分化される事象。

フェルフィールド:寒地高原

エコポエシス:環境詩学。

古典的な鳥の飛行のコンピュータ・モデル。

①等間隔を保って飛べ。

②急に向きを変えるな。

③静止物体を避ける。

トリニダード・トバゴ人:インド人と黒人？

デュグラ:複数の血を引く者。トリニダード・トバゴの言葉？

バスク人共同体。

火星通貨シークインの名称は、古代イタリア、トルコの通貨に因んだもの。

地球の10ヶ月は火星の6ヶ月？火星の1ヶ月は地球のひと月より長い。

人口学:超マルサスの段階=人口爆発。

中国はチベットを漢族で満たした。